



イベントチェックメジャメント

IRC イベントで聞かれる不平不満でよくあるのが、“ボートのデータが正しくない”というもの。これにはどのように対処したらいいのだろうか？ヨットクラブにインスペクションを実施してもらおう。これは難しいことではなく、それによる恩恵は計り知れないものがある。そしてそれは大きな大会に限ったことではない。クラブレースでも、上のような不満により大会が台無しにされるのだ。なにも複雑なことをやる必要はない。

英国(そして幾つかの他の国)では、RRS 78のRYA規程により、レース委員会はいつでもレース艇を検査したり計測する権利を与えられている。そのような規程が無くても、以下のIRCルール13.6により、イベントインスペクションを実施する権限が与えられている。

13.6 レーティングオーソリティーまたはその艇が所属するルールオーソリティーは、理由を明示せずに、いつでも、その艇に計測を受けるよう要求することが出来る。この場合、計測はレーティングオーソリティー公認のメジャーラーによって行われる。新しい証書は新しい計測データをもとにレーティング・オーソリティーによって発行される。

つまり、レース委員会は、必要であれば、IRCルールオーソリティーに連絡して、イベントにおけるボートのインスペクションを行なう権限を要求すればよい。その手順を踏めば、クラブレースでは、そのまま進めればよい。大きな大会では、レース公示にその旨を示す項目を加え、参加者に、インスペクションがいつどこで何に対して行なわれるのかを知らせるべきである。

そのためのイクイップメントインスペクターは、レース委員会により任命される。

実際にどのように実施されるのか？

大きな大会では、まずは、インスペクターがどのような設備が使える、限られた時間内で(RCと協力しながら)、何が必要で何ができるのかを調べることから始まる。そして計画が練られて行く。

単に全ての事をやるのは不可能だ(オリンピックではないのだから!)。重量計測など、困難で費用がかさむ計測もある。コンディションが良くなければ、オーバーハングのチェック(ボートを空にする必要もある)なども難しく、時間を要する。また、ハルの主要寸法の計測値は、間違っている可能性は低い。

そこで推奨されるのは、ほとんどのケースで、リグとセールにフォーカスを当てることだ。これらのアイテムは、最も変更が行なわれるものでもある。その他のチェック項目で、有益で単純なものは、リグの詳細(スプレッダーの数など)、リグ材質、インナーバラストなどであろう。

以上のことを実施するには、適したセール計測場所と計測チームが必要だ。セールの計測は、

そのボートが係留されている場所から近ければ近いほどよい。大会本部やその他のセンターがしばしば理想的な場所である。もしくは、オンサイトセールロフトもいだろう。最悪、芝生の広場や大きな防水シートの上でも出来ないことはないが、天候に左右される。

参加艇にインスペクションを受けさせるのは、レース公示により通知する。何をいつインスペクトするのかについては、個々のボートに対して、アナウンスを行なう必要がある。何を調べるのかは、全てのボートを同じように扱うのか、全くランダムに行なうのか、各ボートの証書を調べてから疑わしいものについて行なうのか、などは自由だ。各艇に要求するものは(全ての項目について計測や検査を行なうのでない限り)、レースの直前になるまで各艇に伝えるべきではない。全てのボートをインスペクトしなければならないという要件はないが、時間と状況が許されれば、そうすることは悪いことではない。可能であれば、インスペクションの様子は公開し、各艇が相手艇がしっかりとチェックを受けているということを認識している状況を作るのがよいだろう。

IRC ルールオーソリティーを通して、レーティングオーソリティーに連絡を入れ、証書のアmendが必要になった場合でも、素早く対応してもらえるようにしておくことが大切だ。レーティングオーソリティーはこうした状況に慣れており、できる限りのことをしたいと考えている(通常の料金で発行する)。

IRC ルール 8.10 には、ボートが証書に準拠している時、数値が最大か最少かを定めている。許容範囲は0であることを忘れないこと。これはしばしば誤解されている。

また、インスペクターは、単に証書との適合を調べているのであり、データの最適化を手伝うことはしない。例えばセールが小さいことが判明したのをいいことに、それをアmendで申告する申請などは、受けるべきでなく、イベントの特別な証書発行アレンジメントを利用して処理すべきものではない。

それでは計測値がおかしい場合はどうすべきか？

そのボートにはいくつかの選択肢がある。大き過ぎるセールを搭載しない。もしくは、セールをリカットして証書に合わせたり、ブラックバンドを移動して間違いを正す。証書の間違いを正すのであれば、再発行が必要であり、素早い申請手続きの対応が求められる。

もしイベントの最中に間違いが発見されたら？

インスペクターはレース委員会に報告し、レース委員会はそのボートに抗議を出すであろう。その結果は、IRC ルールでは必ずしも失格とはならないが、ペナルティーも含め、RRS64.3 および IRC9 と 10 に則り決められることになる。

以上